

(社) 日本原子力学会 標準委員会 原子燃料サイクル専門部会  
第7回 輸送容器分科会 (F3SC) 議事録

1. 日時 平成13年6月11日 (月) 15:00~16:30

2. 場所 (社) 日本原子力学会 会議室

3. 出席者 (敬称略)

(出席委員) 有富 (主査), 望月 (幹事), 伊藤, 植木, 上園, 尾崎, 久保, 佐藤, 讃井, 道券, 林, 広瀬, 松田, 三方, 吉村 (15名)

(代理出席委員) 青山 (芦澤委員代理), 甫出 (丸岡委員代理) (2名)

(欠席委員) 二瓶 (副主査) (1名)

(常時参加者) 川上, 酒谷 (藤原の代理), 清水 (仁), 白井, 手塚, 増田 (6名)

(傍聴者) 清水 (康), 三澤, 森本 (3名)

(事務局) 太田, 市園

4. 配付資料

F3SC7-1 第6回 輸送容器分科会 議事録 (案)

F3SC7-2 標準委員会の活動状況

F3SC7-3 輸送専用輸送容器及び輸送貯蔵兼用金属キャスクの安全設計・評価基準作成方針 (概要)

F3SC7-4 日本原子力学会標準制定スケジュール (案) (原子燃料サイクル専門部会関係)

F3SC7-5 標準作成手引き附属書1 (規定) 標準の体裁 (案)

参考資料

F3SC7-参考1 平成12年度標準委員会事業報告

F3SC7-参考2 輸送容器分科会委員一覧

5. 議事

(1) 出席者の確認

事務局より、出席者の確認の結果、18名の委員中、15名の委員及び2名の委員代理の出席があり、決議に必要な委員数(12名以上)を満足している旨の報告があった。

(2) 前回議事録確認

前回議事録について承認された。(F3SC7-1)

(3) 標準委員会等の活動状況報告

事務局より標準委員会等の活動状況の報告があった。(F3SC7-2)

(4) 輸送容器安全解析手法の標準化の進め方について

望月幹事より標準化の進め方について説明があり、作成方針について全会一致で承認された。主な意見を以下に示す。(F3SC7-3)

- リサイクル燃料貯蔵分科会における検討内容、法令などとの整合性を考慮し進めたい。なお、設計の自由度が損なわれるものについては、参考として附属書の形としたい。
- 取りあえずB型輸送容器が検討対象となるが、キャニスタ型はどうするのか。
- キャニスタは収納物の形態が異なり、原子力安全研究協会にて技術的検討が始まったところであり、当面はキャニスタを用いない収納物を対象としたい。
- 安全解析書作成のハンドブックとなるのが理想的だが、構造・熱・密封・しゃへい・臨界の5つの基本要件を一律に記載することは難しい。例えば、個々の設計に依存し標準化できないものについては参考の附属書に非強制事項として例示するようにしたい。
- 輸送容器としての安全解析手法の標準化を行い、リサイクル燃料貯蔵分科会へ適宜フィードバックをかけたい。
- 製造部分は個々の設計による部分が多いので、標準としては概括的な記載になろう。
- 学会標準は最新の知見に基づいた技術的手法を提示するものであり、必ずしも過去の異なる手法を否定するものではない。既存の輸送容器相応の設計思想、知見に基づいていると考えられ、設計の自由度の範囲であり、それらと相容れないものではない。
- リサイクル燃料貯蔵分科会とのすみ分けはどうなるのか。
- 発電所から中間貯蔵施設までの輸送については、従来の輸送と同じであり、本分科会にて検討を行う。中間貯蔵後の輸送において特に考慮すべき事項は、リサイクル燃料貯蔵分科会の検討範囲である。
- 製造者からのニーズも検討の一助となるのではないか。

(5) その他

讃井委員より今回をもって退任したいとの申し出があり、有富主査より新たな委員の推薦を求めることとなった。尾崎委員より森本氏(原燃輸送)の推薦があり、全会一致で承認された。

次回、第8回分科会開催日については、10月を目途に別途連絡することとした。

以上